



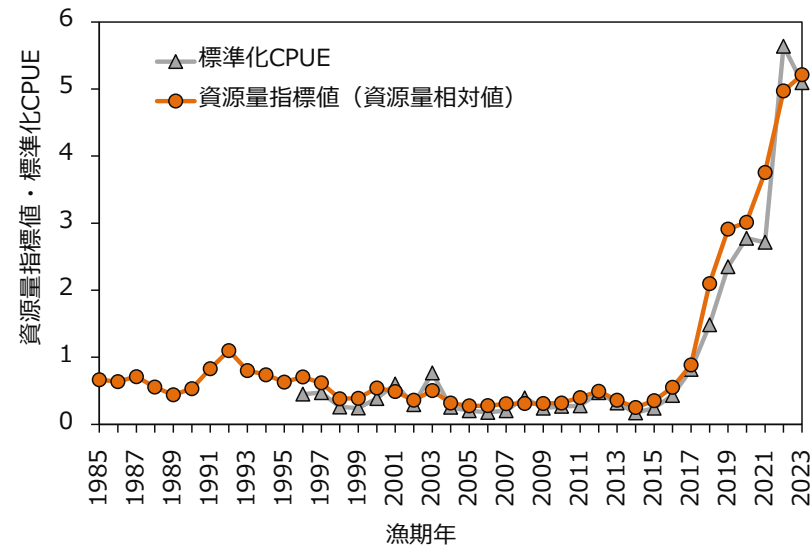
# マダラ（北海道日本海）①

マダラは北日本に広く分布し、本評価群はこのうち北海道日本海からサハリン西岸にかけての沿岸および陸棚斜面域に分布する群である。本資源の漁獲量等は漁期年（4月～翌年3月）の数値を示す。



**図1 分布域**

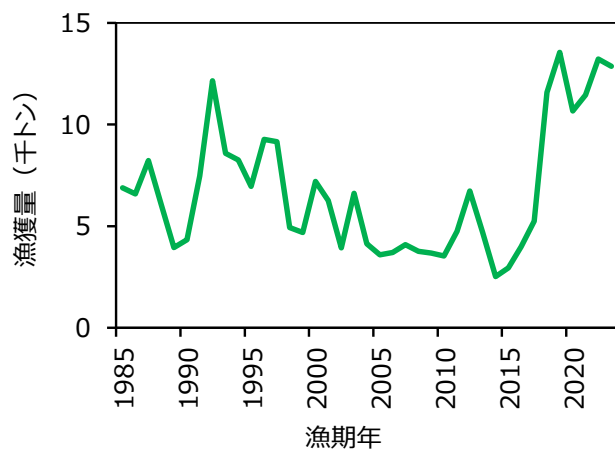
沿岸および陸棚斜面域に分布する。産卵場は分布域全体に散在すると考えられている。



**図3 資源量指標値の推移**

主要漁業である沖合底びき網かけまわし漁法の単位努力量当たりの漁獲量を標準化した値（標準化CPUE）と漁獲量をもとに、余剰生産モデルにより資源量の相対値（4モデルの平均）を推定し、資源量指標値として用いた。

資源量指標値は2014年漁期に過去最低水準まで減少した後に急増し、2023年漁期には過去最高の5.216となった。



**図2 漁獲量の推移**

1992年漁期の12.2千トン进行ピークに減少し、2014年漁期に過去最低の2.5千トンとなった。その後は急増し、2023年漁期は12.9千トンであった。

# マダラ（北海道日本海）②

本評価群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって「令和6（2024）年度 漁獲管理規則およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。

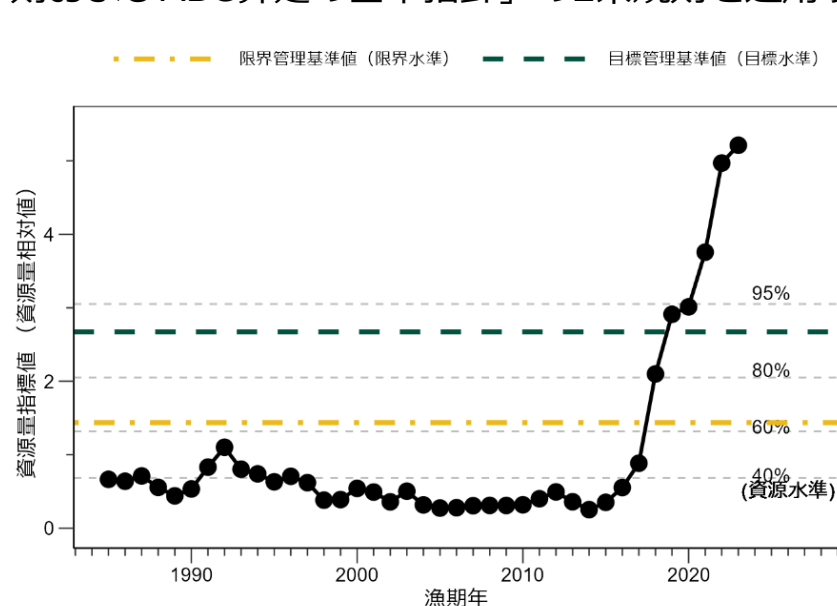


図4 資源水準および管理基準値

本資源では、近年生産力の大幅な上昇が起きた可能性が考えられる。漁獲シナリオでは、生産力が過去の水準まで戻った場合に管理に失敗することを防ぐため、シミュレーション結果に基づいて目標管理基準値（緑破線）には91%水準、限界管理基準値（黄一点鎖線）には63.7%水準が採用されている。

2023年漁期の資源量指標値（5.216）は100%水準に相当し、目標管理基準値および限界管理基準値を上回った。

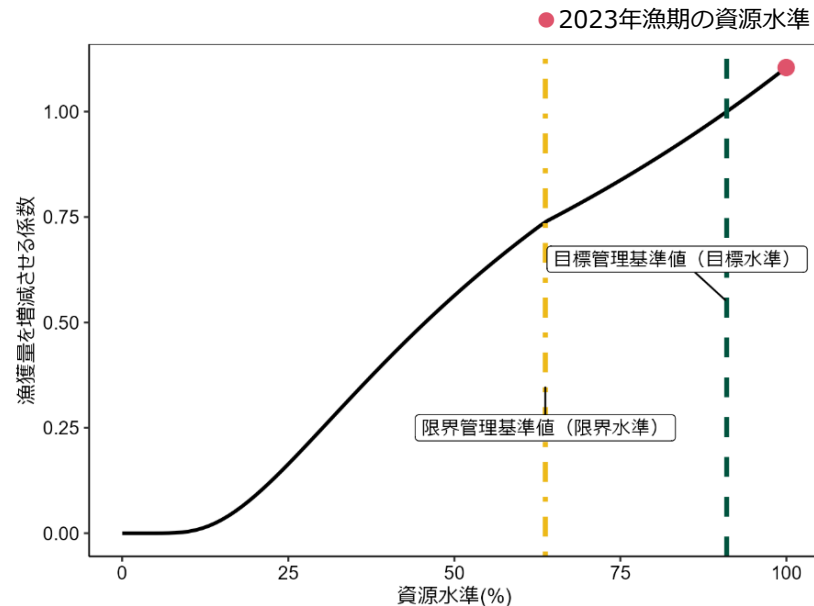


図5 漁獲管理規則

資源水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲管理規則を示す。資源水準が目標管理基準値（緑破線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2023年漁期）の資源水準（100%）における漁獲量を増減させる係数（赤丸）は1.105であった。

# マダラ（北海道日本海）③

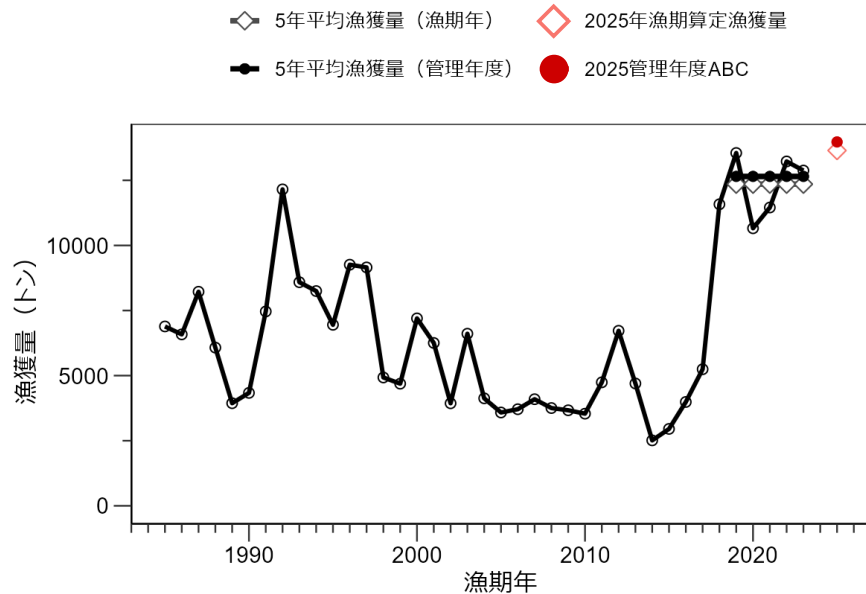


図6 漁獲量の推移と2025管理年度のABC

直近5年間（2019～2023管理年度\*）の平均漁獲量（黒丸、12,649トン）に2023年漁期の資源水準から求めた漁獲量を増減させる係数（1.105）を乗じて算出される2025管理年度のABCは1.40万トン（赤丸）となった。なお平均漁獲量に漁期年での集計値（黒ひし型、12,353トン）を用いて計算した2025年漁期の算定漁獲量は1.36万トン（赤ひし形）となった。

\* 管理年度は7月～翌年6月。

	資源水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値
目標管理基準値（目標水準）	91.0%	1.000	2.672
限界管理基準値（限界水準）	63.7%	0.739	1.437
現状の値（2023年漁期）	100.0%	1.105	5.216
<p>資源量指標値の推移から求めた資源水準と、その目標管理基準値および限界管理基準値との位置関係に基づき、漁獲量を増減させる。 2023年漁期の資源水準は100%水準であり、漁獲量を増減させる係数は1.105となった。2025管理年度のABCは1.40万トンと算出された。</p>			